

移民が見た最後の祖国の光景「アイルランドの涙」

ファストネットロック灯台 (アイルランド)

あまりの美しさと迫りに言葉を失った。揺れる小さな船上で必死に平衡を保ちつつシャッターを切る。ここはアイルランド最南端に位置するファストネットロック灯台。海の中からゴゴゴと突きあがってきたような姿は、日本の豊後水道のまん中に立つ水ノ子島灯台を想起させる。

塔の高さは水ノ子島灯台より15センチほど高い54センチだが、建てられた年は同じ1904(明治37)年だ。灯台の横に黒く低い塔が見える。これは初代灯台の1階部分で、燃料を保管するのに現在も利用しているらしい。初代は1854年に「アイルランドの灯台の父」と呼ばれるジョージ・

ハルピンによって建てられたが、厳しい気象条件によって長期間耐えることができなかった。そしてこの灯台は「アイルランドの涙」という異名も持つ。19世紀にアメリカへの移住を決めた移民たちが涙ながらに見た最後の祖国の光景だったため、そう呼ばれている。

ここを訪れるにはボルティモア港(アイルランドの)から船で片道1時間ほど。運が良ければクジラやイルカの姿もみられるかもしれない。また、この場所はヨットの世界大会の折り返し地点でもあるため、世界的にも知られる光景となっている。灯台の内部にレンズは残っているが、現在は灯籠屋根の上につけられたLED灯器で点灯している。そこだけがちょっと残念だ。(つづく)



ファストネットロック灯台